

行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく臓器・組織移植啓発モデルの構築に関する研究

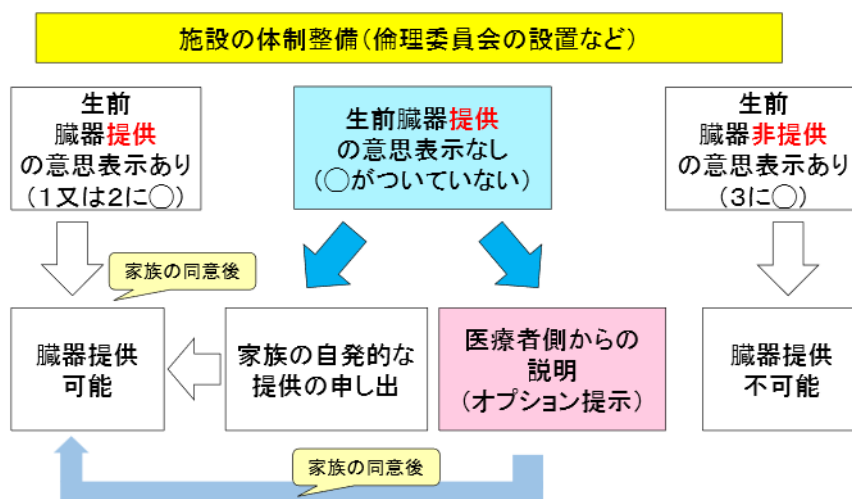
瓜生原班 班会議

令和7年5月7日

移植に携わる医療者への啓発に関する研究
九州大学以外の医療系学生への講義
医学教育のためのコンテンツ作成

九州大学 消化器・総合外科 吉住朋晴

臓器提供のプロセス



移植に携わる医療者への啓発に関する研究
九州大学以外の医療系学生への講義

2024年 1月26日福岡歯科大学研修医
7月5日徳島大学医歯薬学部1年生
9月7日博多メディカル専門学校3年生
10月29日宮崎大学看護学科2年生

2025年 1月24日福岡歯科大学研修医

移植に携わる医療者への啓発に関する研究
九州大学以外の医療系学生への講義

- 2024年 1月26日福岡歯科大学研修医
7月5日徳島大学医歯薬学部1年生
9月7日博多メディカル専門学校3年生
10月29日宮崎大学看護学科2年生
宮崎大学:2015年を最後に脳死下臓器提供がない施設
- 2025年 1月24日福岡歯科大学研修医

【アンケート】

調査対象:宮崎大学医学部看護学科2年生

人数:60名

アンケート回答項目:

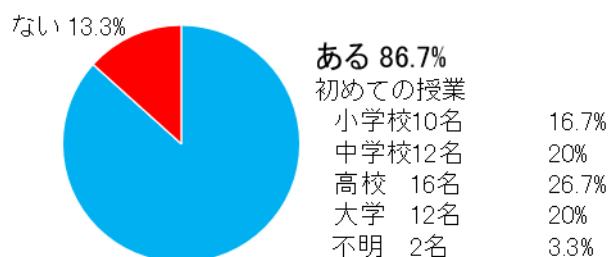
- ① 今までに(今回の講義以外で)臓器移植に関する講義を受けた事がありますか。
- ② あると受けた場合、いつ(どこで)どのような内容を受けましたか、複数回あれば、覚えているものをすべてお書きください。
- ③ 講義を受ける前にもっていた移植に対するポジティブなイメージを書いてください。
- ④ 講義を受ける前に持っていた移植に対するネガティブなイメージを書いてください。
- ⑤ 講義を受けてのあなたの臓器移植に対する考えを書いてください。

【アンケート】

調査対象:宮崎大学医学部看護学科2年生

人数60名

今までに臓器移植に関する講義を受けた経験



【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数:60名

講義を受ける前: 移植に対するポジティブなイメージ

- ・ 一人(のドナー)で何人もの命を救うことができる、不自由な生活ができる
- ・ 患者だけでなく、家族(の思い)を救える
- ・ いのちのリレー、いのちをつなぐ
- ・ ドナーも誰かの体の一部として生きることができる
- ・ クラウドファンディングなどでお金が集まれば、海外で受けられる
- ・ いのちの尊さ、生きるということについて考える機会になる
- ・ 誰かのために役に立つ
- ・ 生きる望みを持たなかった人が希望を持てる
- ・ ポジティブなイメージは、あまりなかった

【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数60名

講義を受ける前: 移植に対するネガティブなイメージ

- ・ 心臓が動いている状況での提供に対するドナー家族の葛藤、精神的負担
- ・ お金がかかる
- ・ 自分はドナーになりたくない、脳死後に体に傷をつけたくない
- ・ 自分の家族が脳死になったらと、想像するのは難しい
- ・ ドナー家族は悲しい思いをしている
- ・ ドナー不足で、待機していても移植を受ける機会は少ない
- ・ 高難度手術・拒絶反応・術後合併症のリスク
- ・ 違法な臓器売買、臓器を目的とした誘拐
- ・ 意思表示率の低さ
- ・ 命の平等に反している
- ・ 脳死の患者さんの命を奪っている
- ・ 待機=誰かの死を待っている
- ・ 映画・ドラマで臓器移植が美談として描かれることに違和感がある

【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数:60名

講義後: 臓器移植に対する考え

- ・ **ネガティブ:** ドナー家族の葛藤、精神的負担
 - 偏見・誤解をなくし、提供に関する考えを尊重できる環境をつくりたい
 - 医療者側の怠慢など、臓器提供には多くの背景がある
 - 医療者には臓器移植の正しい知識を伝える責任がある
 - honor walkやサンクスレターを広く知らせたい
 - 以前から臓器提供を決めていたが、あらためて提供したいと決心した
 - 意思表示はしておきたい、意思表示が重要
 - 命について自分なりに考えを持っておきたい
- ・ **ネガティブ:** 自分はドナーになりたくない
 - 提供する意志はまだ持てない。意思表示の記載をしたい
 - 医療従事者は脳死後の選択肢に臓器提供があることを説明すべき

【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数: 60名

講義後: 臓器移植に対する考え

- **ネガティブ**なイメージなし
→ 渡航移植が移植ツーリズムで非倫理的と言う考えを知り、複雑
- **ネガティブ**: お金がかかる
→ ドナー側・レシピエント側の様々な思いがある。選択肢として紹介したい。
脳死とされうる状態での治療継続は疑問、医療経済の視点は初めて
臓器提供は英語では organ donation = 寄付を初めて知った
臓器移植は積極的に行うべき
今回の講義にとっても心を動かされた
助けることができる命が助けられない現状を変えるべき
意思表示の重要性を学んだ
医療者からのオプション提示が必要
国民への啓発
移植が透析より安価

【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数: 60名

講義後: 臓器移植に対する考え

- **ネガティブ**: 違法な臓器売買、臓器を目的とした誘拐
→ 医療従事者として正しい知識を伝える必要がある
日本の現状を知って驚いた、脳死になったら提供の意思表示をする
無関心は恐ろしい、臓器提供についてさらに学びたい
- **ネガティブ**: 高難度手術・拒絶反応・術後合併症のリスク
→ 将来のため、医療従事者として臓器提供の意味や価値をわかっておきたい
患者を支える看護師になりたい
死について自分なりに向き合いたい
日本の移植数が少ない 医療費の配分を再検討する必要性
- **ネガティブ**: 待機 = 誰かの死を待っている
→ 意思表示が重要

【アンケート】

調査対象: 宮崎大学医学部看護学科2年生

人数: 60名

講義後: 臓器移植に対する考え

- **ネガティブ**: ドナー不足で、待機していても移植を受ける機会は少ない
→ 臓器移植は必要不可欠なものだと感じたが、課題が多い
臓器移植は自分が人生の最後にできる最高の人助けだ
他国に比べて移植が少ない現状を変える手助けをしたい
自分の最期を考えて意思表示をしたい
死の定義を明確にする必要がある
臓器移植を理解しようとする姿勢が大切
医療者は臓器移植を勉強する必要がある
- **ネガティブ**: 映画・ドラマで臓器移植が美談として描かれることに違和感がある
移植医療は倫理と感情の狭間の医療。考えても答えが出ない問題だが、考える機会を設けてもらった

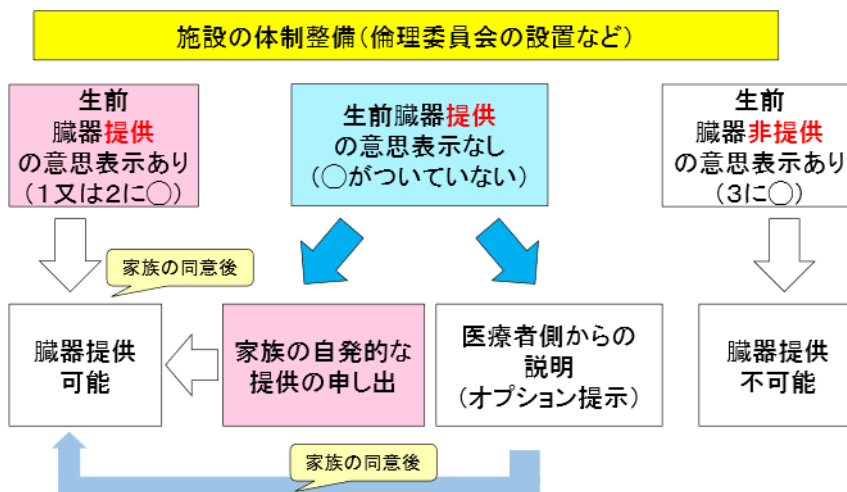
移植に携わる医療者への啓発に関する研究

医療系・非医療系学生・看護師への講義

R6年度

- 2024年 5月11日九州大学1-4年生(選択)
- 7月24日九州大学1-4年生(選択)
- 10月18日九州大学大学院修士課程
- 11月2日移植再生医療看護学会教育講演
- 12月24日九州大学1-4年生(選択)

臓器提供のプロセス



九州大学未来創成科学者育成プロジェクト



	吉住 朋晴 医学研究院 医学研究院
	専門分野 臓器移植、医の倫理
	リサーチテーマ 移植といのち

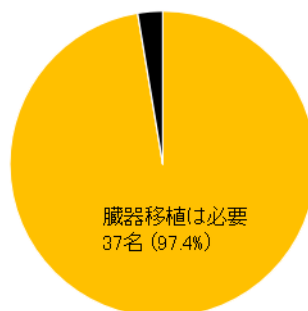
日本の臓器移植数は他の先進国に比べ、著しく少ないため、臓器移植をすれば救われる命が多く失われている。

課題

「臓器移植は日本に本当に必要なのか、必要と思う人はどうすれば臓器移植を受ける機会が増えるのか、必要でないと思う人は臓器移植なしで日本の医療はどうなっていくのか、考えてみよう。」

高校生38名のレポートから

臓器移植は日本に本当に必要なのか、必要と思う人はどうすれば臓器移植を受ける機会が増えるのか、必要でないと思う人は臓器移植なしで日本の医療はどうなっていくのか、考えてみよう。

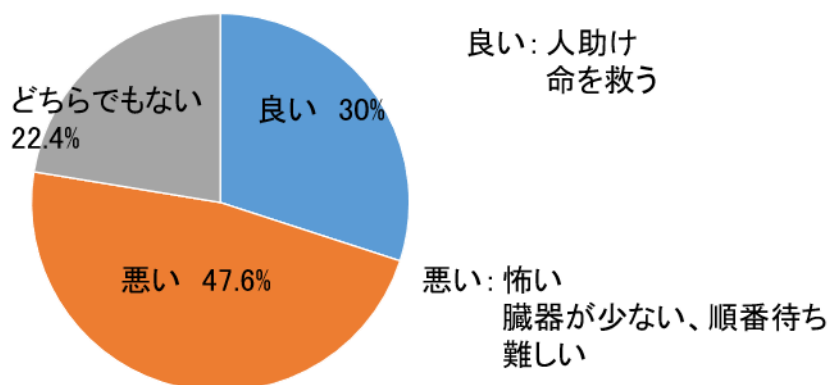


QFCリサーチ

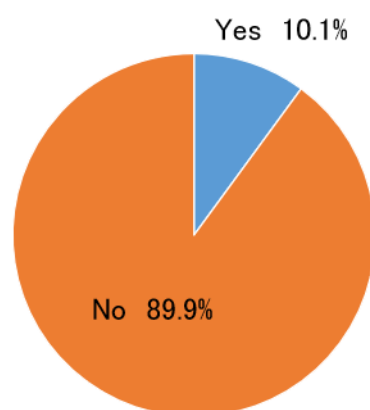
高校2年生一人を選出

- 一次アンケート調査
 対象: 高校生 1182人
 (コントロール: 学校の教員など)
- 臓器移植に関する資料を作成し、高校生に啓発活動
- 二次アンケート調査
 啓発活動後の意識の変容を調査

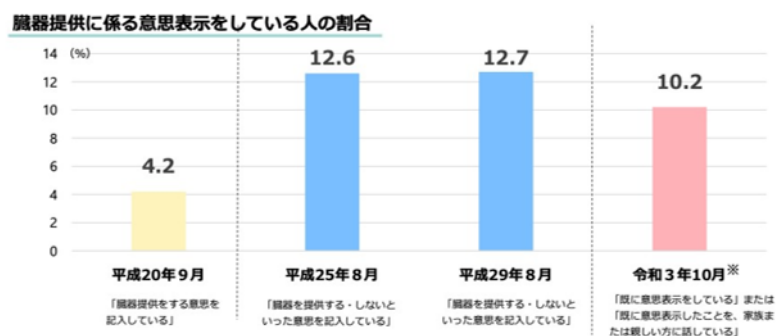
高校生 臓器移植に対するイメージ



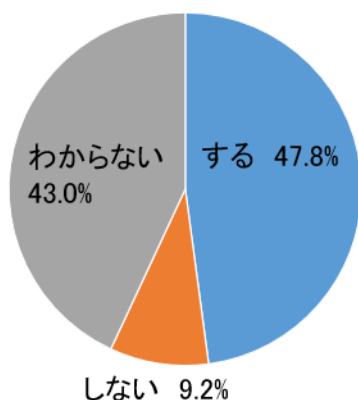
高校生 意思表示率



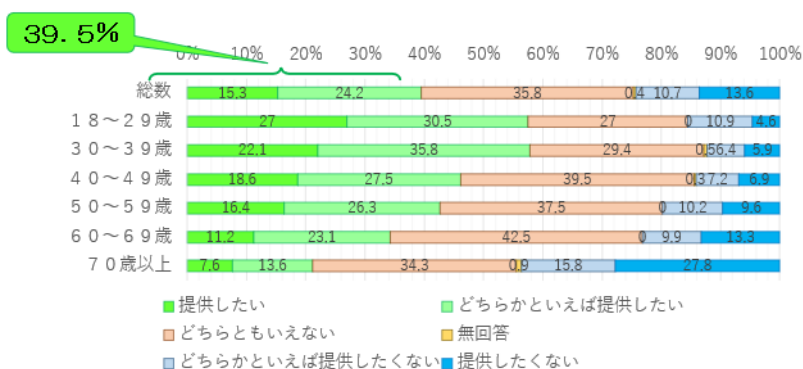
臓器提供に対する意識について 令和3年度内閣府世論調査



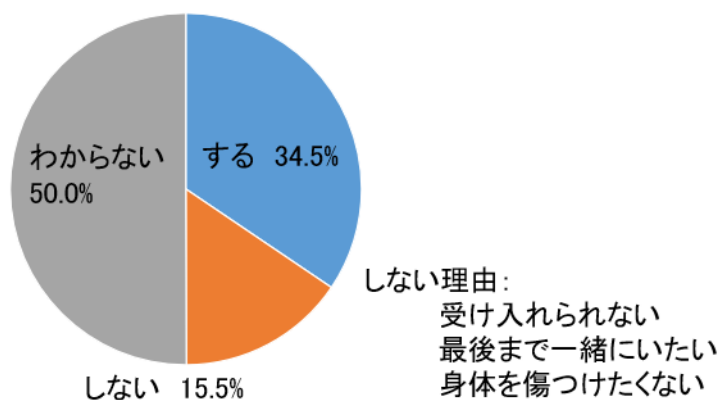
高校生 死後の臓器提供



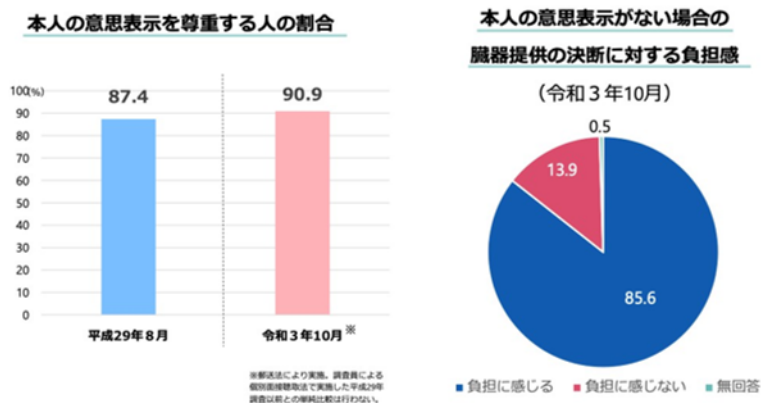
移植医療に関する世論調査 令和3年



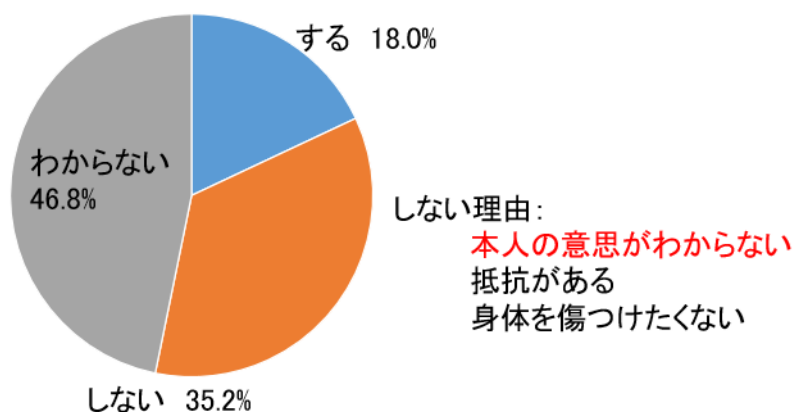
高校生 家族の臓器提供(意思あり)



臓器提供に対する意識について 令和3年度内閣府世論調査



高校生 家族の臓器提供(意思不明)



QFCリサーチ

高校生対象の啓発
正しい知識の伝達
回答の中のわからないを減らす
継続的な啓発

移植に携わる医療者への啓発に関する研究 医学教育のためのコンテンツ作成

- 移植内科医への教育コンテンツを移植学会と協力して作成

まとめ

- 医療系・非医療系ともに大学での専門講義の前に何らかの移植の講義・授業を経験していた。
- 高校生の結果を見ると、今後の高校生あるいはさらに若い世代への啓発活動の重要性が示唆される。
- 大学生の結果を見ると、意思表示の重要性が理解され、臓器移植への国民の無関心から脱却できる可能性がある。また、医療系大学生の就職後にオプシオン提示の増加につながる可能性がある。
- 臓器移植が医療経済的に優れたものであることが認識された。
- **継続的な啓発活動が重要。**